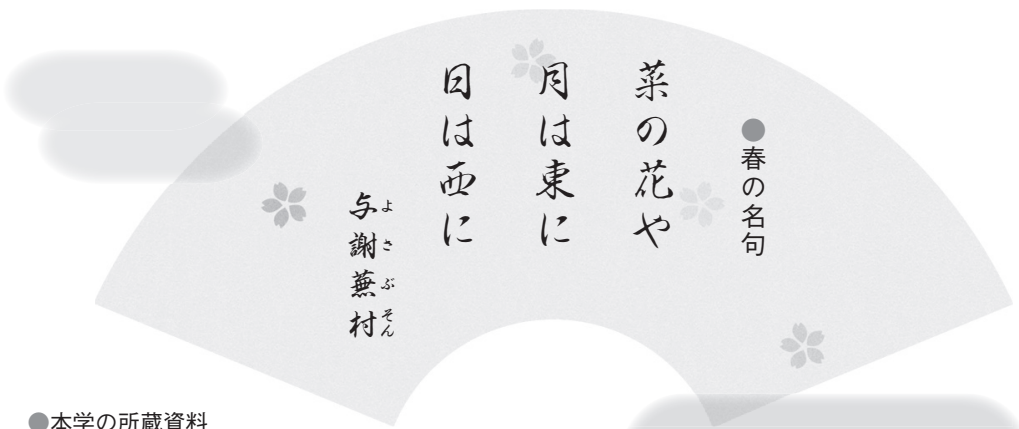




春の図書館を詠む



●春の名句

菜の花や

月は東に

日は西に

与謝蕪村
よ しゃ
ぶ ぞん

●本学の所蔵資料

『蕪村俳句集』（岩波文庫）

与謝蕪村著

請求番号：911.34|Y85 本館地下書庫

『與謝蕪村集』（新潮日本古典集成 32）

與謝蕪村著

請求番号：918|Shin|32 本館第1閲覧室

●歌の意味

一面に菜の花畑が広がる夕暮れ時。

月は東の空から登り、振り返って

みると日は西の空に沈んでいきます。

〔季語〕 菜の花



本学園の学生・教職員の方々から投句いただいた俳句。



遠い春
思い出せる
日記帳
遊電

花爛漫
吾子健やかに
入学す
浮駒

春風に
のせて寿ぐ
記念号
多作一景

春迎え
来采紐解く
友に会う
多聞

野辺つたう
我が足りない
おどり子草
日向狂

頓珍漢
素人俳壇

春がすみ
散りゆく桜を
菜とす
画

木の背に
桜を見つけ
春もよう
食いしん坊

若草の
静かの庭で
読みふける
Alcoholic

車窓より
つづる絵はがき
桜色
欽作

四月吉日
書物の舎に
忘れじも
高砂